

緊急地震速報一周年記念講演会
「情報から始まる防災～緊急地震速報をより減災に役立てるために」
12月1日に開催します

平成19年10月1日に緊急地震速報の一般提供を開始してから一年が経ちました。初めて一般向けに警報として緊急地震速報を発表したのは、一般提供開始から半年以上経過した平成20年4月28日の宮古島近海を震源とする地震でした。この後9月末までに計8つの地震に対して緊急地震速報（警報）を発表しています。

平成20年6月14日に発生した「平成20年（2008年）岩手・宮城内陸地震」では、地震発生を検知してから約4秒で緊急地震速報を発表し、震度5強を観測した仙台市では強い揺れが到達するまでに約15秒の時間がありました。強い揺れが来るまでに数秒間から十数秒という短い時間ですが、各地から、この猶予時間に強い揺れに備えた行動をとることができたとの報告が来ています。例えば、震度4を観測した秋田市では、緊急地震速報を聞いた家庭において、テーブルの下に隠れ身の安全を確保したとの報道がされています。他にも、震度5弱を観測した宮城県大衡村（おおひらむら）にある工場では、強い揺れが到達する前に製造機械を停止するなど活用され、緊急地震速報が所定の機能を発揮しました。

緊急地震速報は、震源に近い場所では強い揺れに間に合わない場合がある、震度の予想に±1程度の誤差は避けられない、という技術的な限界はありますが、日頃からの地震に対する備えと訓練を行っておけば、大きな減災効果があります。

緊急地震速報を今後さらに有効に利用していただくためには、緊急地震速報の精度向上に取り組むとともに、「利用の心得」、さまざまな利活用方法などについての周知・広報活動をより一層推進していく必要があります。

つきましては、気象業務法改正による緊急地震速報の警報化から1年目となる平成20年12月1日に、緊急地震速報の更なる周知・広報、また利活用を進める活動の一環として、緊急地震速報利用者協議会と共催で別紙のとおり講演会を開催します。

(別紙)

- 1 名称 緊急地震速報一周年記念講演会
「情報から始まる防災～緊急地震速報をより減災に役立てるために」
- 2 期日 平成 20 年 12 月 1 日 (月)
時間 受付・開場 13:00 開演 13:30 終演予定 15:30
- 3 場所 (財) 科学技術館サイエンスホール
(東京都千代田区北の丸公園 2-1)
- 4 主催 気象庁、緊急地震速報利用者協議会
- 5 演題
 - (1) 緊急地震速報の発表実績と利用の心得 (仮題)
講師 宇平幸一 (気象庁地震火山部管理課長)
 - (2) 緊急地震速報 (そのときあなたはどのようにしますか) (仮題)
講師 渡辺実 (防災・危機管理ジャーナリスト)
 - (3) 緊急地震速報が有効に活かされるために (仮題)
講師 片田敏孝 (群馬大学大学院工学研究科 教授)

※ 講演内容については後日気象庁ホームページなどでお知らせします。

- 6 参加方法 予約制・400名、入場無料
※ 往復はがきもしくは気象庁ホームページからの事前予約が必要です。
応募方法等については、気象庁ホームページをご覧ください。
- 7 問い合わせ先
気象庁広報室 TEL 03-3212-8341 (代表)
URL <http://www.jma.go.jp/>

※ 同日 (11 時～17 時)、緊急地震速報利用者協議会 (会長：阿部勝征東京大学名誉教授) では、気象庁の後援をもとに、科学技術館 1 階の 2 号催物場において、緊急地震速報の利活用をテーマにした「緊急地震速報関連機器展示会」を開催いたします。この展示会では、緊急地震速報利用者協議会の会員による緊急地震速報提供サービスの紹介、緊急地震速報受信端末の展示・実演及び関連防災機器等の展示が行われます。

(参考)

講演者の紹介

宇平幸一（気象庁地震火山部管理課長）

地震火山部地震情報企画官、仙台管区気象台技術部長、地震火山部地震津波監視課長などを経て、平成20年4月から現職。地震情報企画官であった平成15～16年度には緊急地震速報の試験運用の導入・運営を指揮。現在は、地震火山部の責任者として緊急地震速報の普及及び周知・広報の指揮をとる。

渡辺実（防災・危機管理ジャーナリスト）

株式会社まちづくり計画研究所 代表取締役社長。

防災関係のシンクタンクの研究員などを経て平成元年に「まちづくり計画研究所」を設立。都市防災・災害情報をテーマにテレビやラジオのコメンテーターとしても活躍。緊急地震速報に関しても、いち早く課題解決のための研究に取り組み、テレビ・ラジオ・講演や書籍などで普及・啓発を図る。

主な著書：「緊急地震速報」（角川SSC新書2008.9.10発売）

片田敏孝（群馬大学大学院工学研究科 教授）

専門は災害社会工学。災害からの人的被害の軽減のための社会技術の研究に取り組む。

津波避難シミュレーションを研究し、「動く津波ハザードマップ」の作成などにより、科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞。

緊急地震速報に関しても（社）電子情報技術産業協会の「緊急地震速報利用端末装置の基準に関するガイドライン」検討のための委員長として参画するなど、多方面で活躍。